

# 高田 寄生木（たかだ・やどりぎ）

## 1、プロフィール

杉野草兵の指導を受けて川柳をはじめ。川柳誌「かもしか」の編集に関わり、全国レベルで若手柳人の発掘を目指す「川柳Z賞」を設けるなど、精力的な活動を展開した。

<生没>

1933(昭和8)年6月2日～2018(平成30)年11月3日

<代表作>

句集『父の旗』『砂時計』『しもきたのかぜ』『夜の駱駝』『北の炎』

<青森との関わり>

下北郡川内町で生まれ、家業の靴店を継ぎ「むつ市川内町浦町五七五 あまのや靴店」に北貌の会を置いた。

## 2、作家解説

昭和3年に創立され、一時活動休止があり、昭和34年に復活した「かわうち川柳社」に所属し、昭和40年からは機関誌「かわうち」の編集に関わった。「かわうち」を受け継いだ「かもしか」の編集に関わり、平成14年12月号(通巻431号)まで月刊発行を続けた。

川柳作家としての基礎は、昭和35年のかわうち川柳社創立一周年で杉野草兵に会って通信指導を受けてできたという。他に30年代後半の川柳社の低迷期に導いてくれた岡田稲人、温かく見守ってくれた藤田淳子の存在が作句活動、編集活動の大きな支えとなった。また、「風の街」蟹田町の杉野十佐一との交流、五所川原市の五十嵐さか江、柏葉みのるとの交流、杉野十佐一の知己により師事した川上三太郎との交流等を通して柳人としての力を付けていった。

『父の旗』『砂時計』『しもきたの風』『夜の駱駝』の四つの句集を上梓し、全国からの若手柳人の発掘を目指す「川柳Z賞」の設定、北野岸柳、野沢省悟らと始め

た川柳研究会「Cの会」の開催、「かもしか」終刊後は「北貌」を編集発行と、飽くなき活動を続けた。

活動の功績を認められ、昭和 48 年に青森県文芸新人賞、昭和 51 年に青森県芸術文化報奨、平成 19 年にむつ市文化賞、平成 24 年に東奥賞を受賞した。平成 26 年に東奥文芸叢書 川柳1として『高田寄生木句集 北の炎』を東奥日報社から刊行。平成 30 年 11 月 3 日に川内診療所で逝去し、その翌月「北貌」第 91 号は「終着号」として発行された。

### 3、資料紹介

#### ○句集『夜の駱駝』

図書

1990(平成2)年6月

186mm×130mm

昭和年代後半の 30 年の足跡をまとめた句集で、597 句を収めている。あとがきに「にんげんは自惚と水分を保っているものだ。」「砂漠に一句を刻むことの至難さを知られたのは、何よりの収穫である。」とあり、句集に載せる“わが句”の採集に苦慮したことがよくわかる。